

総合

未来へ向けて

命子連業

一人ひとりが輝く元気なまちづくり

- 角田市第6次長期総合計画を始動 共に「市民力咲き誇る角田市」をめざします。
- 様々な機会をとらえて計画を説明、理解を求め、納得のもとに進みます。
- 「市民力」の大小さまざまな花がひらくよう、いろいろな市民力醸成の仕組みをつくります。

命

いのちを守り、豊かに育む

- 自然災害から市民の命を守るハード対策「角田市防災減災構想」を着実に進めます。
- 2050年までに二酸化炭素排出をゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指します。
- 防災組織(区単位)の「地区防災計画」づくりを支援 確実な自助・共助・公助につなげます。
- 「第2期角田市地域福祉計画」策定で、誰もが生き生きと暮らせる仕組みをつくります。
- 中核病院通院時のタクシー助成、妊産婦への通院助成を行います。
- コロナワクチン接種を確実に進めるとともに、経口薬の実用化を国に強く促します。
- 市民主体のスポーツによるまちづくりを進め、健康長寿日本一を目指します。

子

子どもたちと共に、生きる力を培う

- 角田市の歴史・伝統・文化・産業を学ぶ、ふるさとを誇りに思う学習を行います。
- 保育料・給食費無償化を含め、子供を産み育てたいまち角田を目指し、総合プロジェクト始動。
- 働く場所と住み続けられる場所をしっかりとサポートします。
- どんぐりパーク、アクティブチャイルドプログラムなど、幼児の遊び場と機会を提供します。
- 「学びって楽しい」をコンセプトに、自ら積極的に学ぶ力を養い、人間力、学力の向上を目指します。

連

国・県・市の連携をさらに太く!強く!

- 国・県とのパイプをさらに深くして、災害時の総合的な対応、財政の確保を進めます。
- 自治センターを地域拠点化し、「地区計画」を見直しながら地域と行政の協働のまちづくりを進めます。
- 諸計画の策定から実行まで、市民と職員が共に汗をかく環境を作ります。
- 家庭・学校・地域が協働する「コミュニティスクール」制度を導入します。
- 産業、文化、スポーツなどが連携し化学反応を生み出す、総合会議の仕組みを作ります。
- お互いが思いやり支えあう、誰もが活躍できる、誰も取り残さない、共生社会を目指します。

業

地域産業の復興! 農・林・商・工業を全力で支援

- 産業用地の造成など、新たな産業誘致に取り組みます。
- 産業界と緊密に連携し支援することで、角田の産業の促進と雇用の創出を行います。
- 創業スプラウト事業を進め、市内での新たな仕事づくりを促します。
- 命と環境を守る農業を目指し、再び角田の農業を基幹産業にしていきます。

ホームページ <https://cross-over.club>



YouTube



右記のQRコードからご覧いただけます▶

くろす

黒須とおる後援会事務所

〒981-1503 角田市島田字四拾划12

TEL.0224-62-0241 FAX.0224-66-3487

くろす

黒須とおる

後援会
だより

Vol.7

後援会内部討議資料



共に創る
私たちのかくだ



Happy
four-leaved
clover

御礼のことば

皆様には、日頃より当会の運営にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。
早いもので先般の市長選より2年が経ちました。会員の皆様をはじめ市民の皆様方一人一人の力強いご支援があって当選させていただきました。本当に有難うございました。
思いもよらぬ新型コロナウイルスで世の中が一変してしまいました。今や、感染が下げ止まりとなっています。その煽りで地区の行事も縮小したり、無くなったりと、人と接する機会が少なくなり、皆様方には御礼もご挨拶も儘ならず大変失礼しております。今は、ただただ辛抱の一念でしょうか。
本人は、日々骨身をおしまず市政に全力投球で頑張っておりますので、今回は紙面にてその報告とさせていただきます。

一日も早い終息を願い普段どおりの生活に戻れることをお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。 後援会会長 佐藤 勝利



災害関連

●コロナ禍の市民生活を的確な財政出動で支援

困窮世帯をはじめ市民生活、各種産業活動を、様々な給付・補助事業で支援しました。

●コロナワクチン接種事業

コロナワクチン接種は国がトップダウンで自治体に依頼した政策で、デジタル予約や情報の不確実などで混乱しました。これに対し、角田市は健康診断の周知などで実績のあるアナログ方式が確実かつ市民にやさしいとの現場の判断を取り入れ、結果的に市民の側に立った迅速な接種事業で、「角田方式」との高評価を得ました。現場主義が大切だと確信しています。

●仙南地区へのPCR検査所開設

自治体としてはワクチン接種しか打つ手がない中、県南域でのPCR検査所設置を中核病院設置者等に提案し、もっとも活用しやすい大河原町に開設しました。災害時には、広域での連携した対応がとても大切です。

●阿武隈急行角田駅で

仙台での大規模接種を直接案内

一人でも多く、少しでも早くワクチン摂取してほしい時期でした。特に仙台での感染が拡大する中、本市から仙台へ通う人たちに、通勤通学の途中で大規模接種会場も活用しワクチン接種をしていただきたいと考え、幹部職員と共に直接訴えました。



●福島県沖地震からの復旧・復興

橋脚が損壊した枝野橋の復旧について、宮城県の権限代行で実施。橋脚の損傷は大変な事態であったので、今こそ国・県へのパイプを活用すべきと、国会議員、県知事との連携により、異例のスピードで、しかも道路法が変わってから宮城県初の権限代行という特別な対応となりました。国・県への太いパイプが功を奏しました。



市民力の推進

●「かく大学」とおして次世代育成推進事業を実施

卒業生が新しいコミュニケーションを構成しながら新たな「市民力」の可能性として成長中です。若い職員たちの政策提言から実現、2年目にして「今までの角田市ではありえない自由度と創造性」との評価を受けています。地域や自分の課題を主体的に考え解決する行動力を持った若者を着実に育成していきます。

子育て支援の充実

●令和3年10月より医療費無償化(18歳以下)を実現

これまでの所得制限を撤廃し、子供医療費の無償化で公約のひとつを実現しました。

●「角田市子育て未来基金」を創設

子供を産み育てたいまち角田の実現のため、先ず基金3億円で創設しました。ふるさと納税の活用を見える化し、「子育てしやすいまち創り」を促進します。

●産婦人科オンライン・小児科オンラインを導入

市内に産婦人科や小児科の専門医療機関がなく、相談することが難しい状況から、気軽に専門医に相談できる環境づくりのひとつとして「産婦人科・小児科オンライン相談」、妊娠中～授乳中のお薬の服薬に関する相談ができる「くすりば」を導入することとしました。

行政経営の強化

●返礼品見直しと企業連携強化により ふるさと納税寄付金29億円超え

就任前、令和元年度は16億円でしたが、就任した2年度は27億円、3年度は最終的に29億円超と増加し、県内1位、全国では40位となっています。

●道の駅社長として、開設当初の目標 「3年目黒字化」を達成

水害、コロナ禍、地震災害に負けず、農・福・商・官連携により事業推進中です。

Kスポとの連携、街中誘導、グリーンツーリズム促進で、さらなる賑わいのゲートウェイ機能を発揮し、秋には来訪者400万人を達成します。



伝わる広報の推進

●広報かくだのリニューアル 新たなツールの活用

「広報かくだ」をリニューアルし、若者にも興味をもってもらえる紙面づくりを目指しました。市民力の醸成として「キラリと光るかくだ星」で、角田市内で活躍する人を紹介。また、若者に市の情報を届けるため、市公式YOUTUBE・Instagramを開始しています。

